

The Message — we are Living Together —

「性暴力についての想い」

「性暴力被害」それはあなたにとってどんなものだろう——。きっとその言葉に感じる距離感は人によっていろいろ。被害にあったことがある人も、そして今現在被害を受け続けてる人もいる。身近に被害体験を持つ人がいて、その人と同じ時を過ごした人も、直接は関係したことないという人もいる。

ここにある現実、全ての人にとっての真実。

関係ってなんだろう。あるとかないとか言ったとしても、性暴力があり、性暴力被害を受けた人がいる。そしてそれは、私たちが生きているこの世界の出来事だと言う事。それがただ一つの真実でもある。

だから、聴きたかった、あなたの声を。一緒に生きてる、みんなの声を。共にある声を。ずっとずっとそこにあった、声を。

ツイッター、mixi、ブログ等を通して「性暴力についての想い」を送ってくださいとのお願いをし、現在34名の方からメッセージをお送りいただいています。今後もこうした募集を続けさせていただき、「共にあるこの世界」で、言葉を紡いでいきたい、と思っています。性暴力被害というものを知るきっかけに、仲間がいるということに気付くきっかけに、一歩、歩みだすきっかけに。これらのメッセージを通して、語りかけていきたいなと、思っております。

メッセージをお送りいただいた皆さま、本当に、心から感謝申し上げます。

今回はその中から一部を抜粋して掲載させていただきます。

※ここに載せたメッセージ・文言について、一切の転載等無断使用をお断りさせていただきます。

どんなことがあったとしても、とりあえず全然、死ななくていいんだからね。生きていたら、いいんだからね。

安全に伝えられる場所が、欲しかった。それが、すごい大事。

決して被害者が汚れてはなくて、汚れてるのは加害者です。

被害者に「自分にも落ち度があったのではないか」と思わせることも、性暴力の一部です。

“性暴力を赦さない”という意識が共有されても、“これは性暴力ではない”という反応が次に来ることに、愕然とします。線引きをしないで、性暴力被害者の声に耳を傾ける土壌が、まず存在することを願います。自戒を込めて。

最近少し児童虐待のことを調べているのですが、子どもが性的虐待の被害に遭う場合も、加害者自身が性暴力の被害者である場合も、事態改善が困難なケースが多いようで、性暴力が人に与える傷って本当に深刻なんだな、もう少し真剣に知ろうとしなくては、と思いはじめた所です。

ただただ唐突で無意味で脅威的で、ただただそこに、傷つきすぎた、“私”がいるだけ。

～ The Message ～

配偶者間・パートナー間であっても性行為の強要は性暴力です。

高校生の時、電車で痴漢にあっても「仕方がない、そういうものだ」と思ってきました。
「あなたは、悪くない」。この言葉に含まれる思想が腑に落ちるのに時間がかかったのは、
私に身体化されたあきらめがあったから。心の底からそう思うための努力がいる社会になっている。

暴力全般そうであると思うが、性暴力ほど日常を狭く切り取られるものはない。
そして、それは誰にも語られないなかで、自主選択として為される。

それが間違っていて、歪んでいて、決して許してはならないものだと思いつくのに、随分時間がかかりました。
支配/被支配というびつな関係を築いてしまう癖を手放し、自分の性と生を取り戻すため、
私はまだ回復の途上にあります。これまでもこれから、被害者には長い時間です。

女性が闘わなくて済むよう、男性を啓発することが大事なんじゃないかと思います。なるべく子どものうちから。

もしも周りに性被害に遭った方がいらっしゃったら、まず「あなたは悪くない」と伝えてあげてください。
心身ともに傷つきの最中にある人に「お前にも原因が」などと言うことは、
加害者の背負うべき罪を削り取って被害者になすりつける行為だということを忘れないでください。

性別・年齢・職業・血の繋がりなどに関係なく、殺人や暴力は起きている。性暴力とは、そこに更に『性行為や性的要素』
が上乗せされたものだ。そこに愛情や優しさは微塵も存在しない。

性の対象だと暴力で思い知らさないで。暴力を愛と言い換えしないで。

暴力だと感じるお前がおかしいと言われても、自分の気持ちを大事にできる強さがほしいです。

信頼した人に踏みにじられる気持ちを他の人に味わってほしくないです。

性犯罪被害とは加害者側の身勝手な都合・思い込み・気分を、性的な行為・言動で他の人間にぶつけること。
ぶつけられる側の都合も気持ちも一切関係なく、いきなり受け入れろというその行為は理不尽以外の何者でもない。
ぶつけられた側はその傷を傷だと呼ぶことすら制限される。

『ぶつけられる側』に選ばれた理由は、加害者にしかわからない。第三者のいう「若いから」「性的魅力があるから」
「隙があるから」というセカンドレイプは、単に『他人事だからこそその感想』だ。
加害者の都合だけでなく第三者からの感想まで受け止めなくてはならないのか。

世の中では見知らぬ人からのレイプのみが性暴力とみなされることが多い。もちろんそれも性暴力だが、
身近な人からの性暴力や繰り返される性暴力について話すことは未だにタブーとなっている。
加害者が親・夫・親戚・先生などの場合。こういった場合もきちんと性暴力と認められる社会になってほしい。

あなたの想いを届けてください

- テーマ1：性暴力って何？
- テーマ2：性暴力被害にあって思うこと
- テーマ3：性暴力被害者に関わって思うこと
- テーマ4：自分への手紙（当事者）
- テーマ5：〇〇への手紙（当事者に関わった経験から）
- テーマ6：体験談（当事者）
- テーマ7：体験談（当事者に関わった経験から）
- テーマ8：性暴力について、知って欲しいこと
- テーマ9：性暴力被害を伝えるということ
- テーマ10：今の社会に足りないと思うこと
- テーマ11：具体的に、必要だと思う公的施策
- テーマ12：あの時「あればよかった」と思うこと（当事者）
- テーマ13：あの時「あってよかった」と思う事
- テーマ14：みんなに伝えたいこと

<字数制限>

無し（短いメッセージ形式でも、長文でもOKです）

<記名>

匿名またはペンネーム（お送りいただくさいに本名が記載されていた場合でも名前は使用しません）

<テーマについて>

テーマは重複しても、該当テーマなしでも構いません。それぞれの言葉で書きたい事を書いて下さい。

<個人情報保護について>

明らかに個人が特定され得る案件について記載がある場合等については、別途相談させていただきます。

また、この募集についてこちらが知り得た個人情報等（メールアドレス、個人名等）については、RC-NETで厳重に管理し、決して他者に漏れることはありません。

<送り先>

rc-net@goo.jp

※ メッセージはポータルサイト及び啓発資料、イベント等で使用させていただきます。